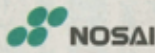
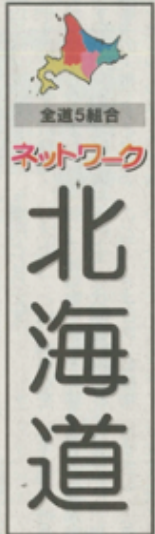


# 牛の尿を特殊発酵 善玉活性水の土壌改良材 未利用資源を有効利用

【北見市】環境大善株式会社（代表取締役社長・窪之内誠さん）は、北見市端野町で牛の尿を特殊発酵させ、天然成分100%の「善玉活性水」を製造している。同社は、消臭液と高性能植物成長促進効果を兼ね備えた液体の研究、製造販売に取り組み、地域農業の発展に一役買っている。



お問い合わせ先  
北海道 NOSAI  
〒060-0004  
札幌市中央区北4条  
西1丁目1番地 北農ビル内  
☎011-271-7263  
http://www.hknosai.or.jp/  
e-mail=hk\_hokho@hknosai.or.jp

## 北見市・環境大善(株)

### 一定の品質保ち無臭 連作障害の対策にも

同社は、善玉活性水を独自の工程で土壌改良材として製品化し、「液体たい肥 土いきかえる」の名称で販売している。固形堆肥は、品質が一定にならず作るのに時間を要するが、液体堆肥は牛の尿を独自の技術で特殊発酵し生成するため、常に一定の品質を保ち無臭だ。



「液体たい肥土いきかえる」  
同商品は液体堆肥として近年、農家でも使用されている。固形堆肥と違い、栽培

### カンボジアに 年間100トンの輸出

同社は、海外の流通にも力を入れている。東南アジアでは農業は盛んだが、肥料と併用したところ、肥料の相乗効果も確認された。



牛の尿を特殊発酵させ液体堆肥を販売している代表取締役社長の窪之内さん



トマトでの散布実験。右が「液体たい肥土いきかえる」の散布。左が通常栽培

成肥料の散布で土が硬くなるなどの問題がある。土壌改善のために同社の商品を使うと、肥沃な土地に戻るスピードが上がるという。実際にカンボジアには年間100トンの輸出を行っている。

海外での使い道は農業だけでなく、エビの養殖に善玉活性水を使用することで、水中微生物が活性化され、エビの排泄物や脱皮の殻の分解を促すことができる。また、稚エビが死ぬことが少なくなり、生産性の向上も見込まれる。

窪之内さんは「弊社の商品は、未利用資源を原料として利用価値を拡大し、日本や海外の農業を救済する材料です。しかし、流通を常に考えて物を作らないと、良い物を作っても売れない。どのような流通をして、そのために弊社が何をできるかを伝えることが大切です」と話す。（坂本）

♪ふれあい広場♪

左から涼さん、長女の嫁ちゃん、妻の小春さん

「真狩村」漆原は、父親の志に、バレイシヨ